

2013年7月2日
東日本旅客鉄道株式会社

中央線御茶ノ水駅付近耐震補強工事の着手について

当社はグループ経営構想Ⅴの中で、「災害に強い鉄道づくり」を推進しており、大規模地震への対応として総額約3,000億円の耐震補強対策等について、2012年度からの約5年間で重点的な整備期間として取り組んでおります。

中央線御茶ノ水駅付近の線路は、神田川に沿って構築された盛土上にあり、神田川と台地側切土に挟まれた地形上に位置しています。これまでも降雨に対する防災工事を行ってまいりましたが、今回、首都直下地震に備えた耐震補強工事に着手いたします。

1. 対策範囲

【別紙】

今回耐震補強工事に着手するのは、御茶ノ水駅付近の約1.2km（昌平橋～水道橋間）の神田川に沿う中央線盛土部であります。なお、このうち御茶ノ水駅改良工事に併せて耐震補強工事を行う駅部（約0.1km）は既に着手済みです。

2. 工事内容

（1）工事の特徴

線路下の土中に棒状補強材を設置し、のり面の表面に設置したのり枠工や既設の構造物と一体化することで、大規模地震による崩壊を防止します。

今回採用する棒状補強材を用いる地山補強土工法は、当社ではこれまで降雨対策として使用してきた実績がありますが、首都直下地震（大規模地震）の盛土等の崩壊防止対策として大規模に採用することは初めてであります。

（2）工事数量（今回着手する約1.1kmの区間）

棒状補強材：約4,000本（標準寸法：長さ約15m、直径約20cm）

のり枠工：5箇所 約3,600㎡

壁面補強：6箇所 約2,400㎡

（3）工期

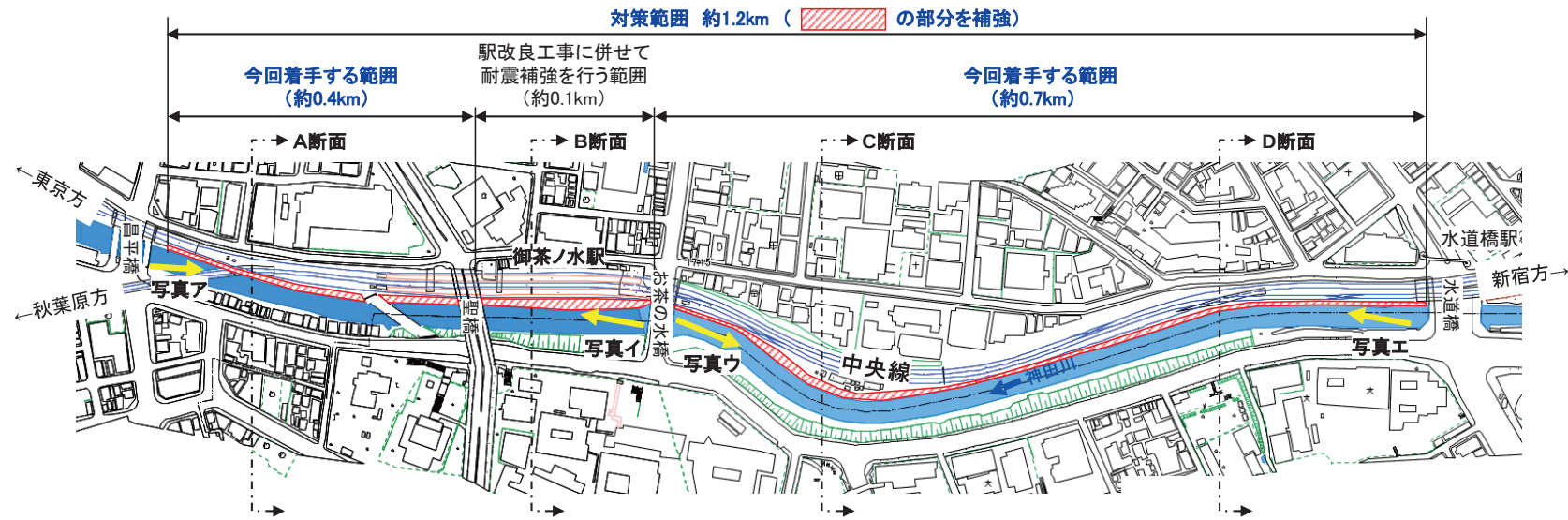
約4年

3. その他

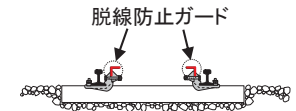
- ・対策範囲は風致地区に指定されていることから、景観に配慮した設計を行っています。
- ・対策範囲では、脱線防止ガードを2012年度までに設置しております。

○対策範囲

【別紙】



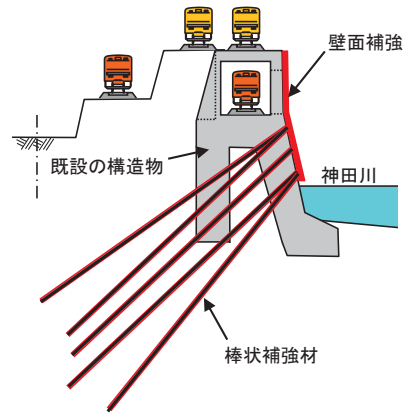
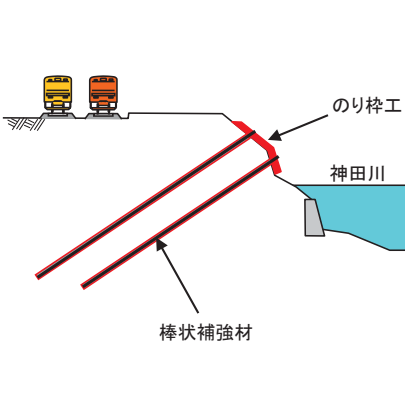
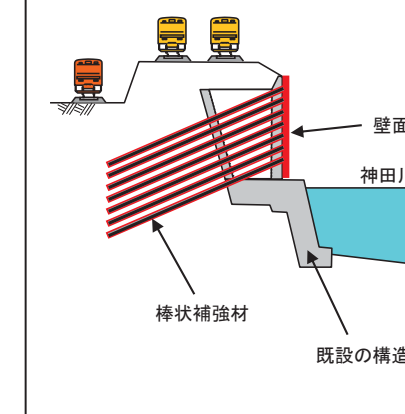
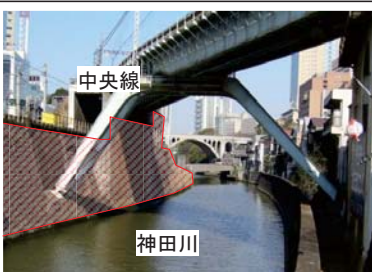
脱線防止ガード(設置済)



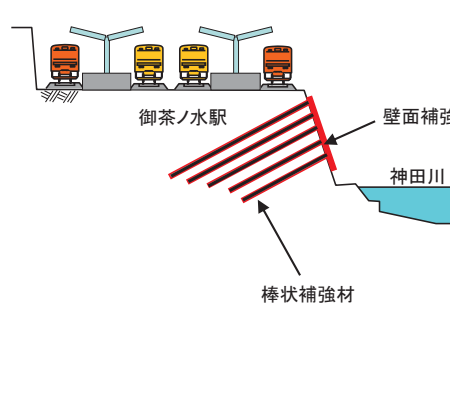
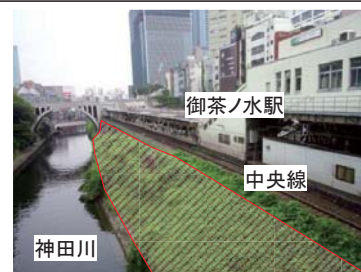
○施工方法

〔今回着手する範囲 約1.1km〕

〔駅改良工事に併せて耐震補強を行う範囲 約0.1km〕

補強方法 (標準)	A断面	C断面	D断面
			
代表的対策箇所	写真ア	写真ウ	写真エ
	 昌平橋より新宿方面を望む	 お茶の水橋より新宿方面を望む	 水道橋より東京方面を望む

 の部分を補強

B断面

写真イ
 お茶の水橋より東京方面を望む